学生大使派遣プログラム実施報告書

人文学部３年
安藤結莉菜
派遣先大学：ラトビア大学
派遣期間：平成 27 年 9 月 5 日～9 月 24 日

ラトビア大学への派遣が決定し、ラトビアに約２週間滞在した。大学では月曜から金曜、90 分２コマの授業を行った。派遣期間中、日本人チューターが最大で７人いたため、授業は基本的にはレベルごとに分けて少人数制で行うことができた。授業に来る人の年齢層は中学生から社会人までと幅広く、レベルもひらがなの読み書きから漢字・敬語までと様々だったため、少人数制で個々のレベルにあった授業展開ができたことは学習者それぞれの確実な日本語力の向上に繋がったと思われる。レベルはビギナー・ミドル・アドバンスの３つにわけた。ビギナーのコースではもちろんほとんど日本語が通じないため、英語で説明しながらひらがなやカタカナ、単語を中心に、ミドルのコースでは会話を中心に、アドバンスのコースでは漢字や敬語、日本語のやや難しい表現もおこなった。授業の進行はある程度テーマを決めて行ったが、学習者から希望があればその希望に沿って授業を進めた。時には「を」と「に」の用法や主格の次にくる「は」と「が」の使い分けなど普段意識せずに使用している文法の質問もあり、教えるのに悪戦苦闘することもあった。私自身十分な英語のスピーキング能力があるわけではなく、授業もカリキュラムなどが決まっていない自分達で作り上げるものだったので、手探り状態で、指導は容易なものではなかったが、大崎先生の助言やチューター同士の話し合いで毎回の授業の改善につなげることができた。

授業終了後には、ラトビア人学生と日本人学生の誕生日の際に誕生日パーティーを開いたり、寿司パーティーでは準備から後片付けまで共に行ったりと、和気あいあいとした雰囲気があり授業以外も楽しく充実していた。

このプログラムでは、(1) 自分自身や日本人としての知覚力、(2) 相手や異文化への理解力、(3) 臨機応変に創意工夫できる適応力、(4) 英語力を含めたコミュニケーション能力の 4 つ力の向上が目的とされていた。(1) については、ラトビア滞在中様々なことに挑戦したことが感じて理解すること、つまり知覚力の向上に繋がったと考える。リガにある軍事博物館や教会へ行ったり、週末を使って訪れたリトアニアでは古都の城を見学したりと、空いた時間や週末を利用して積極的に外に出て歴史的なことやその国について実際に見て学び、感じることができた。(2) については、現地で知り合った人達は理解しようと努力するまでもなく、みな気さくな人ばかりですぐに打ち解け、仲良くなるのは難しいことではなかった。帰国後も連絡を取るなど良好な関係が続いている。しかし文化、特にロシアやその周辺の国々との関係については教えてもらいたい気持ちもあったが、その関係性や文化について現地の人がどう感じているのかについてはうまく立ち入ることができなかっ

た。ラトビアの文化や日本にはないルール、伝統料理など、現地の人との交流なしでは知りえなかったこともあり、大変興味深く、新鮮に感じた。(3)については、前述したように授業の内容は学習者の要望を聞いてから決めることが多かったため、毎回臨機応変に対応しなければならなかった。天気についてという要望がでれば天気→暑い、寒いなどの気温にかかわる言葉→嬉しい悲しいなどの感情を表す言葉、といったように学習者からでた疑問に応じて内容を派生させていく形で行った。話題ごとに区切るよりも印象に残りやすいと考え、そのような形をとったが、事前の準備ができなかったため授業後にもっと工夫ができたのではないかと思うこともあり、創意工夫の点に関しては十分満足のいくものとはいえなかったと思う。(4)については、英語での授業ということもあり、辞書を引きながらではではあったが、次第に会話も円滑に進むことが多くなり、この経験は確実にコミュニケーション能力の向上につながった。ただ、せっかくラトビアに滞在していたのにラトビア語ではいくつかの単語と表記の仕方を学んだだけであったため、授業以外でも、もっと積極的に現地の友達に話しかけコミュニケーションもかねてラトビア語も学べればよかった。

このプログラムに参加して、学生大使として海外に行くのは初めてのことだったが、現地での時間は有意義で非常に充実した約 2 週間を送ることができた。ラトビアでの経験は現地の人とのコミュニケーションの難しさや授業を展開していく上での試行錯誤、予定通りに進まなかったこともあり決して楽しいことばかりとはいえなかったが、それ以上に得られたものは大きかったように思う。私自身英語が流暢に話せるわけではなくつたない授業ではあったが you are a good teacher といってもらえたときは嬉しかったし、現地で大切な友人ができたことはこれからの生活をより豊かにすると感じている。

今後は、目下の目標としては英語の運用能力向上に励みたい。ラトビアでの生活で現状よりも英語をスラスラと話せたらと思うことが多かった。英語はどこの国であっても必要不可なコミュニケーションツールであり、身に着けた英語能力を活かした職業に就きたいと考えている。ラトビアで築いた現地の友人や留学生達との関係はこれからも大切にしていきたい。